

北信がんプロ外部評価の評価手順（令和3年度）

1. 外部評価委員会の各評価委員による評価

各評価委員がそれぞれ、委員個々の評価結果報告書を作成する。

- (1) 評価にあたっては、「外部評価報告（委員提出用）」を用いて、活動状況と評価、成果報告会・学長連絡協議会・運営協議会によるプレゼンテーション（動画）に基づき評価を行う。
- (2) 当該評価報告書は、本プログラム担当がんプロ事務局へメール等で提出し、事務局で一時お預かりした後、全ての委員からの報告が揃い次第、外部評価委員会委員長へメールにて送付・提出する。

※ 各委員からの外部評価報告 がんプロ事務局へ提出 令和4年3月18日（金）15時まで

2. 外部評価委員長による外部評価委員会評価結果（案）の作成

各評価委員からの評価報告を受けて、委員長が外部評価委員会としての評価結果（案）を作成する。その後、評価結果（案）を各評価委員へ送付し、評価委員は評価結果（案）を確認する。

各評価委員は、修正意見及び質問等があれば、その旨を任意の書式により記述し、事務局へ提出する。事務局は、意見等を整理して評価委員へ送付する。

評価委員長は、必要に応じて修正意見を踏まえた評価結果（修正案）を作成し、各評価委員へ送付する。委員長は、メール等で対応できない場合、審議の必要があると認めた場合は、外部評価委員会を再度開催する。

最終的に外部評価委員会としての外部評価結果を作成し、事務局へ通知する。

※ 外部評価（総括） 最終提出締切日 3月25日（金）15時まで

お忙しいところ、誠に恐縮ですが、文科省への取組調査等の報告期限もあり、上記日程にてご対応いただきたく、よろしくお願い致します。

諸事情により、ご対応が困難な場合は、お知らせください。

【問い合わせ先】金沢大学 北信がんプロ事務局 担当 今村
TEL：076(265)2854 FAX：076(265)2855
mail：gpro@med.kanazawa-u.ac.jp

北信がんプロ 外部評価委員名簿

	氏名	所属・職名
1	まつうら なりあき	大阪国際がんセンター総長
	松浦 成昭	全国がんプロ協議会会長
2	いしおか ちかし	東北大学腫瘍内科教授
	石岡 千加史	東北次世代がんプロ事業推進責任者
3	ましま よしゆき	患者会 NPO 法人
	眞島 善幸	パンキャンジャパン理事長
4	しぶや たけし	地元産業界 シブヤ EDI 代表取締役
	澁谷 武志	(澁谷工業グループ企業)

外部評価結果（委員提出用）

外部評価委員： 松浦 成昭 （自筆）

【評価結果】
<p><input checked="" type="checkbox"/> 問題や不十分な点はない。</p> <p><input type="checkbox"/> 一部問題や不十分な点がある。</p> <p><input type="checkbox"/> 全体的に不十分であるか、一部に重大な問題がある。</p>
<p>[実施状況に関するコメント]</p> <p>6大学がそれぞれ特徴を出しながら、お互いに連携協力して5年間、北信がんプロの多岐にわたる様々な事業を実践し、大きな成果を出したことを高く評価します。第2期がんプロで北陸拠点で文科省から低い評価を付けられましたが、その汚名をばん回する優れた成果を出して頂いたと思います。特に、各大学のすべての本科生コース、インテンシブコースいずれも養成目標を達成したことに対して、皆様のご努力に敬意を表します。履修生は様々な分野で多職種にわたっており、第3期がんプロのテーマであるゲノム医療等の高度がん医療人材養成、ライフステージに応じたがん対策を担う人材で、今後の活躍が楽しみと思います。また、教育内容の充実、多職種連携演習の活性化、海外研修の実施、市民向けの発信も十分に果たしていただきました。外部評価にも耳を傾けて適切に対応いただき、迅速に改善に努められたことにも感謝申し上げます。</p>
<p>(優れた点)</p> <ul style="list-style-type: none">・各大学のすべての本科生コース、インテンシブコースで履修生の目標を達成して、多職種にわたる様々な分野の養成を達成した点。・第3期がんプロの新規のテーマに対する講義教材を充実させて、多数の学生が履修したこと・北信オンコロジーセミナーを18回開催し、のべ1856名が受講し、多職種連携演習を実りある形で実践したこと・ライフステージ事例検討会を40回と極めて多数開催し、3890名以上の参加者を得て、がん患者のそれぞれのライフステージに合わせた医療・看護について多職種で検討し、大きな教育効果を得たこと・コロナ禍のため最初の2年だけではあったが、スタッフの海外研修を行い、最先端の医療

を現地で学び、国際性の涵養に資したこと

- ・北信4県のがん拠点病院の院内がん登録を用いて、当該地域のがん医療の特徴を明らかにする検討を行ったこと

- ・市民向けの講演会を各大学単位および北信がんプロとして合同で行い、多くの医療情報を市民に啓発したこと

- ・最終年度に全国がんプロ教育合同フォーラムを主催し、全国レベルで第3期がんプロの教育について、成果と今後の問題点を明らかにしたこと

- ・第3期がんプロ事業が綿密なスケジュール管理の元実践され、運営協議会などを通じて常に情報共有を行い、意見交換しながら運営したこと

- ・ホームページでがんプロ事業の内容と成果を広く広報に務めたこと

(改善を要する点)

第3期がんプロ事業に関して改善を要する点はありません。

がんプロは15年間実施されてきて、多くの修了生を出しているため、今後、修了生のフォローについても取り組んでいただければと思います(石川県立大学のような取り組み)。

外部評価結果（委員提出用）

外部評価委員： 石岡千加史

石岡千加史（自筆）

【評価結果】高く評価出来る

- 問題や不十分な点はない。
- 一部問題や不十分な点がある。
- 全体的に不十分であるか、一部に重大な問題がある。

[実施状況に関するコメント]

プラン採択時の目標に沿って事業が実施されており、第3期がん対策推進基本計画のがん医療の充実に関わるがん医療人養成に成果があり、今後、地域のがん医療の推進や均てん化に貢献できる事業成果がえられた高く評価出来る。

（優れた点）

養成数や受講者数のアウトカムを明示し、定期的に外部評価を行った点。受講者のアンケート調査を実施して事業評価の参考にした点。各大学の特徴を生かし、先端がんゲノム医療、小児・AYA 世代・希少がんの集学的治療、ライフステージに応じたケアを大学の教育システムで養成を進めた点。

（改善を要する点）

地域がん医療に貢献するがん医療従事者の資格取得状況（例えば、専門医、専門・認定看護師や薬剤師、認定遺伝カウンセラーなどの人口100万人当たりの地域医の養成数）について、プラン実施前後との比較や、各県およびプラン参加県平均と全国平均との比較で分析し、地域格差、職種間格差の問題がないか検討してほしい（事後にも分析、評価は可能だと考えます）。

外部評価結果（委員提出用）

外部評価委員： 真島喜幸 (自筆)

【評価結果】
<input checked="" type="checkbox"/> 問題や不十分な点はない。 <input type="checkbox"/> 一部問題や不十分な点がある。 <input type="checkbox"/> 全体的に不十分であるか、一部に重大な問題がある。
[実施状況に関するコメント] 総括 ・令和2年度、令和3年度は従来とは異なり、大学病院や関連施設などがコロナ感染症による深刻な影響を受けたことから、一部のがんプロ事業に支障がでたことは否めない。しかし、全体的には参加校間と地域連携のIT化が進み、コロナパンデミックに負けることなく、活発ながんプロ教育事業が進められたことは高く評価できる。 ・本事業を通して金沢大学を主幹として北信地域の6大学が連携協力しながらゲノム医療含むがん教育コース（本科10、インテンシブ9）を開発し、医師、看護師、薬剤師など多職種を対象とした教育を進め、当初の目標値を超える実績を積み上げ、高度がん医療を先導する医療人を多数輩出したことは高く評価できる。 ・免疫チェックポイント阻害薬使用例など特色ある症例を集めた北信地域がんデータベースを構築し、学会・論文作成に利用するとともに地域がん対策にも活用し、その成果を地域社会に還元していることは高く評価できる。 ・メディカルサイエンスの最新技術と知識に関する教育プログラムを継続的に開発し、ゲノム医療や希少がん、小児・AYAがん、難治性がんなどを含むがん患者のライフステージにあわせたがん医療、がん研究などに対応できる医療人の育成を継続し、がん患者の予後、QOLを高め、積極的に地域社会に貢献している点は高く評価できる。
(優れた点) ・本科生コース、インテンシブコース：この5年間を通して、6大学連携の北信がんプロの事業は順調に進んできており、設定された目標以上の多数の履修者を輩出したことは高く評価できる。また、資格取得者数も目標値を超えたことは高く評価できる。

- ・FD研修：国内外の学会、イベント関係ではコロナの影響から海外の学会参加は不可能な状況が続いているが、早々にオンライン参加に切替えて対応している点は評価したい。
- ・地域社会への還元：がんプロ事業は、地域社会のニーズにマッチした重要な活動なので、指摘されているように、北信地区全体で協力しあい、地域社会への還元を継続していただきたい。
- ・地域社会の課題である急激に進む少子高齢化に対して、北信がんプロ事業参加校が妊孕性温存ネットワークを立ち上げるなど、ゲノム医療以外のさまざまな課題に取り組む姿勢は高く評価できる。
- ・非常に強い参加施設間の連携をベースとした、レベルの高い「がんプロ事業」を実施している点は高く評価したい。

施設別評価：

1. 信州大学

本科生コースでは、ゲノム医療に精通したがん治療医育成のための博士課程を実施し、12名が参加。修士課程ではがん診療に詳しい認定遺伝カウンセラー養成コースを実施し9名が参加した。インテンシブコースでは、看護師が履修し、9名が修了済。がんプロコースでは目標数を実績が超えている点を高く評価したい。また、E-learning教材を合計29コマ作成したことは高く評価したい。

- ・北信がんプロのオンコロジーセミナーを企画し、3回開催したことは評価したい。
- ・北信DBの解析・研究として小児・AYA世代と肺がんに関する研究を行い論文投稿した点は評価したい。
- ・海外FD研究にも参加したことは評価できる。
- ・人材交流の積極的に行い、NGSDプロジェクトとして、ゲノム医療を推進する次世代スーパードクターの育成をすすめ、28名の医師を参加させたことは評価したい。
- ・合同市民公開講座を開催し、がんプロ所属学生の成果・体験発表会も開催し、大学院生の交流を図ったことは評価したい。
- ・信州大学独自の取り組みとしてがんゲノム医療の推進と妊孕性温存ネットワークの構築があげられる。妊孕性ネットワークは、長野県内の4医療県内で9つの施設を繋いで病診連携体制を構築したことは評価できる。

2. 富山大学

・本科生コースでは、「高齢がん患者対策」に30名の医師が参加した（30名/16名）ことは高く評価したい。「個別化医療薬剤師」には、3名の薬剤士が参加（3名/4名）。

・インテンシブコースでは、「高齢がん患者対策」に医師10名が参加した（10名/10名）ことは評価したい。また、「個別化医療薬剤師」には、12名の薬剤士が参加（12名/9名）、「在宅緩和リハ」には看護師11名が参加（11名/7名）、1名が修了しがんプロ認定エキスパート看護師に認定されたことは高く評価したい。

・北信がんプロオンコロジーセミナー・合同市民公開講座、薬学系講演会、市民公開講座などを開催した。

・がんゲノム医療拠点病院としての実績を積み上げ、さらに2020年6月、富山県内初となる「総合がんセンター」を開設したことは評価できる。

・全国がんプロ協議会ゲノム医療部会にて成果発表した。また、ライフステージ事例検討会にも成果発表した。

3. 福井大学

・本科生コースでは、「地域がん専門医」に21名の医師が参加した（21名/8名）ことは高く評価したい。

・インテンシブコースでは、「在宅栄養管理」に多職種94名が参加（94名/78名）、「在宅緩和医療」には、109名の多職種医療者が参加（109名/96名）したことは高く評価したい。

・北信がんプロオンコロジーセミナー・看護セミナーなどを開催した。

・E-learning教材は、在宅緩和医療、臨床栄養学、老年医療学に関する9テーマの教材を作成したことは評価したい。

・地域医療者向けのスキルアップセミナーを開催し、がんゲノム医療、ACP、アピアランスケア、家族ケア、妊孕性温存、がんロコモ、がんリハビリ、腹水管理・CARTなどのトピックが含まれた。

・市民公開シンポジウム「がん診療最前線」を開催した。講演テーマには、胃癌・大腸癌・肺癌・乳癌・膵癌、がんゲノム医療、ロボット手術、先進医療、小児がん頭頸部がん、骨転移、妊孕性温存、ACP、栄養サポート、子宮頸がんワクチン、新型コロナなどが含まれた。これら

の講演はオンデマンド配信中であることは評価したい。このような市民公開講座は貴重であることから、継続して地域社会にプロモートし配信していただきたい。

・「がん診療最前線」というタイトルで最新がん医療に関する 50 ページの冊子を作成し県内の医療機関に無料配布したことは評価したい。

・福井県の小学校から高校までがん教育のための出張授業を行い貢献したことは評価したい。

・福井県がん患者生殖医療ネットワークの立ち上げに参加し不妊治療の中核施設となる。

・福井大学では、地域全体、医療人全体のレベルアップを図ることで、先進的がん医療人の育成をすすめている点は評価したい。

4. 金沢医科大学

・本科生コースでは、「地域がん専門医」に 21 名の医師が参加した（21 名/8 名）は高く評価したい。

・インテンシブコースでは、「在宅栄養管理」に多職種 94 名が参加（94 名/78 名）、「在宅緩和医療」には、109 名の多職種医療者が参加した（109 名/96 名）ことは高く評価したい。

・北信がんプロオンコロジーセミナー・看護セミナーなどを開催。特に新しい領域であるがんゲノム医療や免疫チェックポイント阻害薬などを取り上げた講座は評価したい。

・E-learning 教材は、在宅緩和医療、臨床栄養学、老年医療学に関する 9 テーマの教材を作成した点は評価したい。

5. 石川県立看護大学

・第 3 期がん対策推進基本計画で取り上げられた「がん予防」、「がんと診断されたときからの緩和ケア」、「ライフステージに応じたがん対策」に対する対応策を進め、さらに基盤整備の一環として人材育成とがん教育・普及啓発にも取り組んだ点は評価できる。

・特に医療人教育に関しては、2018 年「メルボルン 緩和ケア視察研究」と「医療者・患者への抗がん剤曝露露予防」に取り組んだ点は評価したい。

・2019 年は、公開講座などを開催し医療関係者等の連携協力の更なる強化に取り組んだ。さらに 2020 年には合同市民公開講座として、ACP に取り組んだ。2021 年には AYA 世代のがん体験から支援について考え取り組んだ。また、コロナ禍でのがんサロン活動についても取り上げた。2022 年は WEB 研修で英国緩和ケアについて学んだ。

- ・本科生コースでは、「がんライフステージコース」に7名の看護師が参加した（7名/8名）。
- ・インテンシブコースでは、「がんライフケアコース」に34名の多職種が参加した（34名/22名）ことは高く評価したい。
- ・ライフステージ事例検討会は、2020年度からコロナの影響により、会場とオンライン開催のハイブリッド形式にて実施されるようになり、参加者数が大幅に増加し、過去最高となり、1000名を超えるようになった。また、看護師、医師を含め多職種の参加も増えた。特に2019年に参加した医師数は52名であったのに対し、2020年は235名と約4倍強となった。2017年から2021年までの参加者数は、合計2,366名となったことは高く評価したい。
- ・がん看護事例検討会も2020年よりハイブリッド形式での開催となり、2017年の36名から2021年は過去最高の40名となった点は高く評価したい。
- ・リンパ浮腫ケアの基礎編とアドバンス編についても2020年よりハイブリッド形式となり、多数の医療者が参加した。2017年には基礎編+アドバンス編の参加者は77名であったが、2020年には88名の参加となった点は評価したい。

6. 金沢大学

- ・本科生コースでは、「先進的個別化医療」に26名の医師が参加した（26名/20名）は評価したい。「個別化薬物療法・薬剤師リーダー」には6名の薬剤士が参加（6名/7名）。「高度化医学物理士」には、8名の医学部物理士が参加した。（8名/8名） 目標35名のところ合計40名が参加し、目標値の114% を達成できたことは高く評価できる。
- ・インテンシブコースでは、「がんゲノム障害教育」に医師39名が参加した（39名/26名）ことは高く評価できる。「個別化薬物実践薬剤師」には、12名の薬剤士が参加し（12名/12名）、「がんゲノム多職種連携入門」には、67名の多職種が参加した。（67名/40名） 目標78名のところ118名が参加し、151%を達成できたことは高く評価したい。
- ・北信がんプロオンコロジーセミナー・看護セミナーなどを開催した。
- ・E-learning教材は、在宅緩和医療、臨床栄養学、老年医療学に関する9テーマの教材を作成した点は評価したい。
- ・海外FD研修会は2018年に米国ワシントンDCにある国立ヒトゲノム研究所（NHGRI）と国立がん研究所（NCI）を視察した。
- ・がん拠点病院と連携したスタッフ研修会を開催し、合計14回、972名が参加した点は評価

したい。

- ・2018年に国際エキスパートセミナーを2回開催し、77名が参加した。
- ・市民公開講座を6回開催し、611名が参加したことは評価したい。
- ・北信がんプロの連携を活用し石川県における妊孕性温存ネットワークを立ち上げた。

(改善を要する点)

・「患者中心の医療」を実現するためには、がんと告知された患者と家族には急速に進化するゲノム医療を理解すること、特にがんゲノム医療の入口であるコンパニオン診断、がん遺伝子パネル検査さらにリキッドバイオプシーを理解すること、さらに出口である遺伝子変異にマッチした治療法、適応外薬を使用した患者申出療養制度、医師主導型治験などを理解することが必要なので、それらをやさしく紹介する市民公開講座などを定期的に開催し、地域社会に向けて継続的にオンデマンド配信してほしい。

・患者・市民向けのダビンチ・ロボット手術や腹腔鏡手術などの低浸潤外科治療、PRRTなどの核医学治療、適応拡大される粒子線治療など、次々に登場する新しい治療法の紹介もオンデマンド配信してほしい。

・近年、患者・市民参画 (Patient and Public Involvement: PPI) の重要性が指摘されていることから、本事業の役割についてさらなる社会の理解を深めるために、患者・市民との積極的な対話の機会を市民公開講座のパネルディスカッションなどを利用して開催してほしい。

・北信がんプロ事業に参加する医療関係者のみならず、市民公開講座の参加者、地域社会に対するアンケート調査なども定期的に行い、北信がんプロ事業の社会還元についての評価結果を事業関係者と共有し、可視化を図り、改善に向けたPDCAサイクルを回してほしい。

外部評価結果（委員提出用）

外部評価委員： 北谷 武志

（自筆にてサインをお願いします）

【評価結果】
<input checked="" type="checkbox"/> 問題や不十分な点はない。 <input type="checkbox"/> 一部問題や不十分な点がある。 <input type="checkbox"/> 全体的に不十分であるか、一部に重大な問題がある。
[実施状況に関するコメント] ・北信がんプロは本科生コース、インテンシブコース共に目標を上回る履修生を受け入れ、北信がんプロが当初計画した事業のすべて実行したことは大いに評価できます。 ・コロナ禍の厳しい状況下にもかかわらず、Web会議やテレビ会議システム等を活用し、e-learning、各種研修会、セミナー、事例検討会、市民講座などを積極的に開催したことに敬意を評します。
(優れた点) ・北信がんプロの活動に参加している6大学が、それぞれの強みや特徴を生かしたテーマを分担する形で相互補完的にがん医療人材の育成に積極的に取り組んだことは、評価できます。 ・28もの多くのがん診療連携拠点病院が参加して登録データをデータベース化し、がん対策に活用していることは有益なことだと思います。
(改善を要する点) ・がんの早期発見、早期治療により、早期に職場や社会に復帰することが出来、健康寿命を延ばすことが出来ることなどから、がんの予防・検診の重要性を市民講座や北信がんプロのホームページ、マスメディア(新聞、TV)等を通じてもっと啓蒙・普及していただきたい。 ・今後も北信がんプロの先進的な事業の取り組みを継続していただきたいと思います。

外部評価結果（総括）

外部評価委員： 松浦 成昭 （自筆）

【評価結果】
<input type="checkbox"/> 問題や不十分な点はない。 <input type="checkbox"/> 一部問題や不十分な点がある。 <input type="checkbox"/> 全体的に不十分であるか、一部に重大な問題がある。
[実施状況に関するコメント] <p>6大学が、5年間にわたり、北信がんプロとして連携・協力体制を取って、がんプロ事業を実施し、目標を上回る養成者を得て、質の高い教育を実践されたことを高く評価します。どのコースも第3期がんプロの掲げていた医療人の養成であり、今後の北信地域のがん医療の向上や均てん化への貢献が期待できます。第3期の後半の期間はコロナ禍に見舞われましたが、がんプロ教育の質や量を落とすことなく、適切に対応して、事業を継続したことも評価に値します。</p> <p>文科省からの補助事業はこれで終了となりますが、在学中の大学院の教育はもちろん、地域のがん拠点病院のスタッフや市民に対する教育・啓発活動も引き続き、継続して取り組んで頂き、地域がん医療の向上に尽力して頂くことを期待します。</p>
(優れた点) <ul style="list-style-type: none">・各大学の本科生コース、インテンシブコースのすべてのコースで養成目標を達成した点・各大学の特徴をいかし、先端がんゲノム医療、小児・AYA世代・希少がん医療、ライフステージに応じたがん対策を担う人材の養成を積極的に進めたこと・綿密なスケジュール管理をしながら、養成者・受講者などのアウトカムを明示し、各大学が連携した形で事業を実施し、定期的に外部評価を行い、必要な点を改善しながら進めたこと・コロナ禍にも迅速・適切に対応し、がんプロ教育の質を落とさずに継続したこと
(改善を要する点) <p>第3期がんプロ事業として改善を要する点は見られませんが、今後の課題となることや検討いただきたいことを記します。</p> <ul style="list-style-type: none">・今後も引き続き、ゲノム医療について、リキッドバイオプシーや遺伝子パネル検査の出口

となる臨床研究などについても市民向けの講演会を実施し、継続的に配信していただきたい。
また、ロボット手術、粒子線治療などの新しい治療についても市民教育に務めていただきたい。

- ・患者・市民参画（Patient and Public Involvement）の観点から、積極的に患者・市民との対話に務めていただきたい。

- ・がん医療スタッフの資格取得状況について、経時的な変化や各県および全国との比較で分析し、地域格差・職種間格差を検討して頂きたい。

- ・修了生のフォローを行い、新たな教育に活用していただきたい。